

## 洋上風力特集

2022年3月15日

# ＜洋上風力特集＞秋田・能代の発電所建設・O&Mサポート 東京汽船、CTVで



大型船舶型CTV“JCAT TARO”

洋上風力発電向けのCTV（洋上風力発電アクセス船）の国内パイオニアである東京汽船。2013年12月以降、福島、銚子、北九州の洋上風力発電実証研究事業向けにCTVを投入し、昨年3月からは秋田港・能代港で秋田洋上風力発電（AOW）が運営する日本初の本格的な商業洋上風力発電の建設工事用にCTVを投入している。

齊藤宏之社長は曳船や交通船などの事業を運営する同社グループがCTV事業を展開する理由を、「海上での人の安全確保という当社の使命に合致している。また、脱炭素化がテーマとなる時代において重要性が増す公共性の強い業務であることと、船舶のサイズ感が当社グループの運航する種類の船舶と同じであるから」と説明する。

同社のCTV船隊は、「JCAT」の名を冠した大型船舶型4隻と、「PORTCAT」の名を持つ小型船舶型3隻の計7隻で、いずれもアルミ製の双胴船。このうち4隻はツネイシクラフト&ファシリティーズで国内建造したものだ。国内トンで20総トン以上となる大型船舶型のうち今年3月初めに引き渡しを受けた“JCAT TARO”は日本初建造の大型船舶型CTVとなった。

AOW向けのCTVは、建設工事用が“JCAT TARO”を含め東京汽船から5隻、O&M（運用・維持管理）用には東京汽船と秋田県の地元3社とが設立したAkita OW Serviceから2隻が投入されるが、この2隻は建設工事・試運転段階にも用いられる。

船舶の運航面について同社は、CTV事業を対象として、品質、環境、労働安全衛生の各ISO認証を取得している。齊藤社長は、「CTVは、アルミ製の交通船で誠に小さな事業であるが、洋上風車の稼働率を左右するので、風車建設・運営での責任は大きい。欧州のスタンダードを参考に高いレベルのサービスを提供したい」としている。

同社はまた、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の事業で、風車建設・メンテナンス専用船（SOV）開発プロジェクトにも参画している。

洋上風力分野の今後の展開について、齊藤社長は「今後CTVのニーズが変化していくのであれば、当社もそれに合わせて船を進化させていく。また、CTV以外の船や、洋上風力発電をはじめ再生可能エネルギーに関するサービスも研究していきたい」との考えだ。

---

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.